

基調講演

演題：「地方創生の取組について」
 講演者：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣参事官 諏訪園 健司



まち・ひと・しごと創生総合戦略(2014年12月) 基本的考え方 → 2015改訂版の主なポイント

【背景】人口減少時代の到来(地方から、加速度的に)
 【目指すべき将来の方向】「活力ある日本社会」の維持
 > 若い世代の希望が実現 → 出生率は1.8程度に向上
 > 人口減少に歯止め → 50年後に1億人程度の人口確保
 ⇒ 人口構造の若返り(地方が先行して若返る)

I. 地方創生の現状を踏まえた検証・改訂

- ①人口減少に歯止めがかかっていない
- ②東京一極集中が加速
- ③地方経済と大都市経済で格差が存在

⇒ 総合戦略策定から事業推進の段階へ

II. 政策メニューの拡充(地方創生の深化)

- ① ローカル・アベニクスの実現(ローカルイノベーション等)
- ② 政府関係機関移転、「生涯活躍のまち」構想
- ③ 「地域アプローチ」による少子化対策
- ④ 連携中枢都市圏、「小さな拠点」の形成 など

III. 地方への支援(地方創生版・3本の矢)

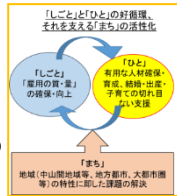
↗ 情報支援(RESAS) ↗ 人的支援 ↗ 財政支援

◎人口減少時代の戦略づくりのポイント

- ☆ 発想の大転換、「攻め」と「守り」
- ☆ 「金太郎アメ」からの脱却、地域連携、政策連携
- ☆ 限られた資源の活用、政策の検証(PDCA等)
- ☆ 地域の総力結集(産官学金労言、若者・女性・高齢者) など

基本的視点

- (1) 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- (2) 「東京一極集中」の歯止め
- (3) 地域の特性に即した地域課題の解決



基本目標

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

講話

演題：「石川・金沢の伝統文化 もてなしの心」
 講師：茶道裏千家今日庵業跡 奈良 宗久



○ 石川・金沢とゆかりが深い「茶の湯」

- > 前田利家公の存在 ~ 織田信長・豊臣秀吉・千利休らと関係
- > 3代利常公、5代綱紀公に招かれ、裏千家の千仙叟宗室(利休から4代目)が茶の湯を指南
- > 加賀藩では茶の湯を通して城中と城下が交流

○ 茶の湯の影響を受けて育まれた石川・金沢の伝統文化

- > 千仙叟宗室が作庭等を指南した玉泉院丸庭園や瀧雪亭
- > 仙叟宗室に同道した初代大樋長左衛門が焼き物(大樋焼)を始めたほか、御菓子などへの広がり
- > 加賀藩が美術工芸等を奨励。京都や江戸から様々な文化人を呼び、美術工芸や文化の魅力が向上

○ 「茶湯一会集-独座観念」に学ぶ「一期一会」、「もてなしの心」

- > 「大茶人」であった井伊直弼が記した「茶湯一会集」
 ~ 茶会の後、帰路についた客に思いを馳せ、今日1日、自分が亭主をしたことを振り返る
- > 「一期一会」とは、今日は再び帰らない、同じことは二度とないということのお茶を通しての言葉

意見交換(主な意見)

・北陸地域の産業構造の問題として、小規模企業が非常に多く、労働生産性を引き下げているほか、育児休業を取る余裕もない。小規模企業の統合を後押しする何らかの施策が必要。

・「攻め」と「守り」の双方でというところで、今からシュリンクしていく社会をつくっていかなくてはいけないということをも国の方からもPRしていただきたい。

・自治体にしても、子育てに良い住宅地を開発して若い人を呼び寄せようとしているが、また何十年かすると、インフラの維持、空き家をどうするかということになる。

・人口減少社会の中では、マンパワーで解決できない課題が多くなり、価値観の転換が必要な時期に来ているのではないか。

・就活をする若者に、都会の大企業より給料は安いかもしれないが、北陸で暮らすことの質の高さ等をうまく見せていけないか。

意見交換(主な意見)

・独座観念や一期一会について、日本人に生まれて良かったということが実感できる。

・北陸新幹線開業効果をいかに持続できるかという部分について、1つの根幹として、茶道や焼き物などの文化をもっと外部に発信することによって、北陸の良さというものが浸透していく。それでさらに新幹線効果を持続させることができるのではないか。

・茶道を中心とする日本の文化は世界に大きな影響を与えている。日本は世界で最も西洋と東洋をよくわかっているのだから、今こそ日本は、ソフトパワーをもって世界に発信すべき。